

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	ほっこりの里（児童発達支援）	公表日	令和8年 5月 8日
------	----------------	-----	------------

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・地域交流スペースをかつようしたり、部屋数は多いと感じる。 ・児童の様子によって、客間等空き室を利用している。	・基準を満たすだけでなく、余裕を持ち過ごせる環境を引き続き、大切にしていきます。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・短時間バイトを含め、配置数を適切にしている。	・急遽職員の休みを想定し、他事業所より応援の職員を配置する等、あらかじめ取り決めをし、サービスの質を落とすことないように体制作りを行います。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・駐車場から入口・一階フロア全面バリアフリーである。 ・こどもにわかりやすく、イラスト表示・そして、扉と壁の色分け・床面の色を分けるなどの設備である。	利用者数の増加に伴う上で、環境に配慮が必要な事を見直しする機会をつくります。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・来所前・来所後の清掃を心掛け、誤飲事故へとならない様に、物の整理を心掛けている。	・感染症・食中毒のリスクについて、定期的に職員間再確認していきます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・地域交流スペース・相談室・静養室・面談室と幅広く使用している。	・必要に応じ継続して使用できるように、心掛けます。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		・月一回の職員会議を開催し、短時間勤務の職員も参加できる時間をつくりPDCAを図っている。	・引き続き、短時間勤務職員も参加しやすい日程調整を行う。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・保護者様から気づき・学びとして意見を頂き職員間で認識・共有を図っています。	・改善につなげていけるよう、職員それぞれ意識していけるよう心掛けて参ります。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・朝礼や面談の機会を設ける事で、改善に繋げている。	・継続して、意見等の場の機会を設けます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		・他事業所や相談支援員に訪問してもらい、利用者の様子や職員の様子を見て頂いている。	・定期的に第三者の評価を受けていきます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・研修のメールが届くなどの情報により参加する機会を設けている。	・今後も様々なツールからの情報をきっかけに参加できる機会をつくっていききたい。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・公表している。	・様々な経験を活かせるように多様な取り組みを取り入れます。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		・個別支援計画書の作成の際は、お子さんがワクワクできる内容を心がけている。	・個別支援計画書の評価や振り返り、改善を繰り返し、サービスの質を高めていく。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・月に1度、個別支援計画書の検討会を行い、こどもの成長や強みなどを利益とする検討を行っている。	・こどもの最善の利益を考慮した検討を行っていただけるよう意識していく必要がある。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・一人ひとりの計画に沿った支援を共有できるように、声を掛け合う、支援目標シートなどを作成している。	・職員間の声かけ、支援目標シートなどを作成し、共有を継続していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・職員の声を集めて、多角的に使用にできるように心がけている。	・適応行動の状況をフォーマル、もしくはインフォーマルなアセスメントを使用し確認していく。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・こどもの発達状況に合わせ、具体的な支援内容を取り入れている。	・子供の発達状況を留意しながら、具体的な支援内容を取り入れることを心がけていきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・担当者が立案し、他の職員のアドバイスも踏まえるようにしている。	・固定化されないように、他の職員のアドバイスや、どのような活動があるのか情報収集を行います。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・四季の活動を取り入れるなどの工夫をしている。	・四季の活動、経験の場を増やせるように工夫していきます。

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		・こどもの能力に応じて、無理のないように支援を活かすようにしている。	・こどもにとって無理のないようにしていきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・役割分担や支援の内容を確認し、チームで連携できるように支援を行っている。	・支援開始前には打ち合わせを行い、支援の内容を振り返り、チームで連携できるように支援を行っていきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・支援終了時の職員が少ない。気づいた点などは、連絡ノートで伝えている。	・気づきをそのままにせず、実際支援で活用できるようにチーム内で声を掛け合いながら進めて参ります。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・連絡ノート、朝礼で気づいたことを教え合い、支援日誌に記載している。	・支援記録のポイントなどリスト化し、支援の進捗具合など、職員それぞれが把握しやすい仕組み作りがします。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・月に一度PDCAサイクルの実施をしている。	・今後も月に一度PDCAサイクルを取り入れて行っていく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・日々、こどもの支援を行っている支援者が会議に参加している。	・今後も、支援を行っているものが参加できるように体制を整えます。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・お迎え時や、連携が必要な場合は、連絡を取れるよう体制を整えている。	・今後も関係機関と連絡して支援を行えるように体制を整えていきます。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・子供が通っている保育所や認定こども園、幼児教室へ見学へ向かい、面談時間も設けていただき、情報の収集と共有を図っています。	・定期的な見直しを行い、支援内容等の情報の共有を行っていきます。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・学校での支援方法など聞けていない。教員と面談する機会があればと思う。	・現在、学校機関との連携は、相談支援員を通ず決まりとなっておりますが、直接やりとりができるようになればと思います。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外務研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		・研修を受け機会を設けている。	・今後も研修の機会にて助言等をいただく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		地域の子ども達が遊びにきてくれることがある。	・地域交流スペースも設置しているので活用していけたらと思う。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・変化がある場合や状況について共通理解は必要だと感じる内容については伝え合うようにしている。	・成長段階であるこどもの変化や状況について今後も、伝え合うことは続けていきたい。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		・保護者の様子も伺い、レスパイトケアを行っている。	・事業所内での研修開催時にご家族の参加を促すなど、ペアレント・トレーニングとなる機会をつくっていきます。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・契約時に書面を通して説明を行っている。	・定期的に不明な点がないかなど事業所からアプローチしていきます。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		・定期的な面談を通して意向の確認を行っている。	・引き続き定期的な面談を通して意向を確認していく。	
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		・面談の中で計画について話すので同意を得やすい。要望があるときは聞いている。	・相違がないよう、丁寧に説明していきます。	
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・面談は定期的で行っている。不定期な時に悩みを聞くことが多いように感じる。	・保護者様が相談しやすいように、関係性を築いていきます。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	・直接会を催す事はしていないが、情報をもらえた時は聞くようにしている。	・毎年ほっこりフェスティバルを開催しており、兄弟お参加できるので、SNSやお知らせにて拡散して参ります。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・直接電話を入れたり、体制を整えて話のできる時間をつくるように心がけている。	・申し入れがあった場合、迅速かつ適切に対応して参ります。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		・SNSで子どもたちの活動の様子を知らせている。	・Instagramを活用し、日ごろの様子を投稿して楽しんでもらうように発信を増やします。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・個人ファイルに鍵付きの書庫へ保管し、目的外利用の禁止は全職員に定期的に周知し、情報の取扱いに注意している。	・定期的に情報の取り扱いに注意を促していきます。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・視覚支援・筆談・ジェスチャー・連絡帳や電話・メールを通して意思疎通しやすい手段をつくっている。	・意思疎通を情報伝達への配慮を今後も続けて参ります。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		・地域の事と遊ぶ機会も大切にしながらルールも伝えている。散歩などでは地域の人にこちらから挨拶を行っている。	・地域交流スペースを運用し、地域とのつながりを日常化できるようにします。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		○	・職員へのマニュアルの周知は、法人会議、研修の際に周知することができている。 ・訓練は、定期的に行われている。	・マニュアルの見直し、改善を年間の予定に組み込み、定期的に業務継続計画の完全を行っています。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・BCPの研修を法人内で開催している。 ・定期的に避難訓練を取り入れている。	・研修・訓練を必要な回数行っていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		・面談の際に聞き取りを行い、子供の状況を確認している。	・情報の再確認を定期的に行い状況を確認していきます。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・食物アレルギーのある子供については、保護者から医師の支持内容を伺い対応している。	・食物を提供する際は、食物アレルギーのある子供を把握し注意していくことを心掛ける。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		・年間安全計画を立て、月に一度の会議にて安全管理を取り入れている。	・より安全が必要だと思われる内容については計画を振り返る。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		・年二回災害備蓄品の確認を行い、できるだけ三分備えられるよう家族様に準備をして頂いています。	・今後年2回の振り返りを行いご家族への協力を呼びかけます
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・職員へ常に口頭にて共有を呼びかけ、できる限り月に一度開催している会議で検討している。	・月に一度の会議を開催し再発防止に向けていく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・法人内会議を開催している。また、貝塚市従業者を対象とした研修へ促し周知を行っている。	・事業所だけでなく、第三者の意見なども取り入れ、事業所の風通しをよくしていきます。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		・身体拘束をしなくて良い方法を考えて、個室や個別対応するなど工夫している。	・安全の為の身体拘束であっても、記録は必ず残し、必要性の判断も事業所だけ行わず、主治医等第三者の意見を取り入れます。	